

クレーンを使って甲板に下ろされる屋形＝26日、奈良市二条大路南4丁目の平城宮跡横「平城京歴史館」



そろり 甲板に屋形

平城遷都1300年祭のメイン会場、奈良市の「平城宮跡会場」(期間4月24日～11月7日)で建造中の「遣唐使船」に、屋形を設置する作業が26日から始まった。1棟約1トの屋形が二つ、クレーンで甲板に下ろされたほか、船首に近いもう1棟の屋形は部材のまま運び込み、組み立て作業を行う。



平城遷都1300年記念事業

「遣唐使船」建造着々

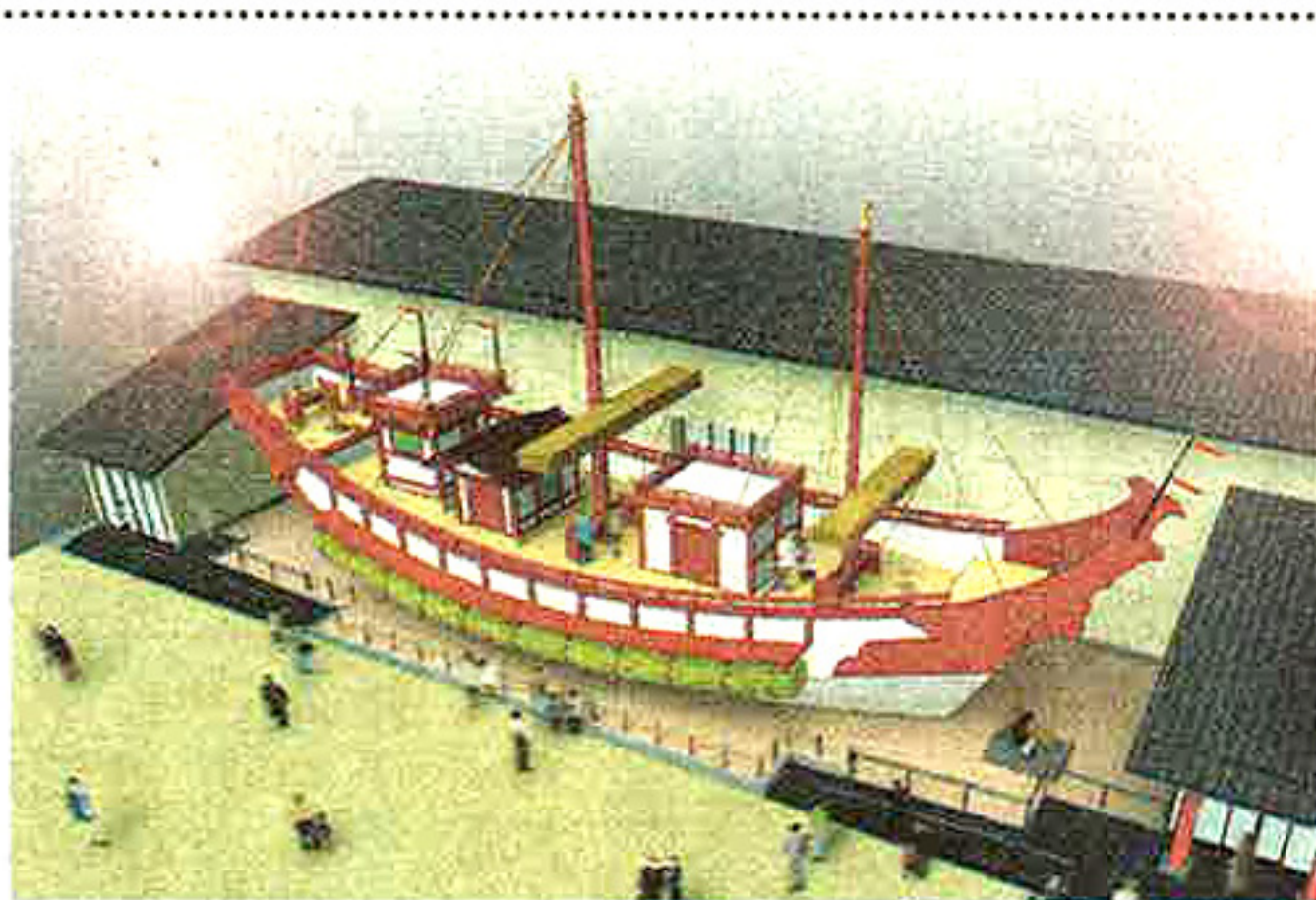
(二条大路南4丁目) 船は、船体部分が姿に併設される「遣唐使」を現し、これからは屋

形やマスト、帆などを設置する機装(きそう)作業が本格化する。屋

形は12世紀末に描かれた「吉備大臣入唐絵巻」を参考に、吉野杉材を使って組み立てた。揺れを最も受けにくく、遣唐大使らが使用したとされる船尾近くの屋

形は、幅2・2メートル、奥行き2・4メートル、高さ3・5メートル。中央の屋根形の屋形は、幅2・1メートル、奥行き3メートル、高さ2・24メートル。一番大きい船首近く

の屋形は、幅3・4メートル、奥行き2・8メートル、高さも2・6メートルあり、留学生や僧らが寝泊まりに使ったといわれている。クレーンを使った搬入作業は、遣唐使船



遣唐使船の立体イメージ図 (平城遷都1300年記念事業協会提供)

朱雀門の西側に建設中の「平城京歴史館」